

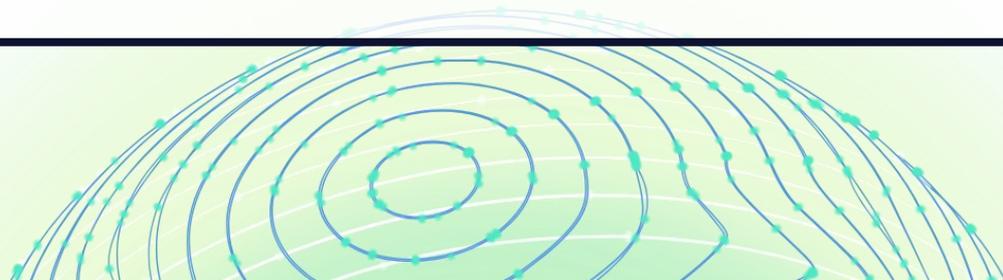


一般社団法人

**AIガバナンス協会**

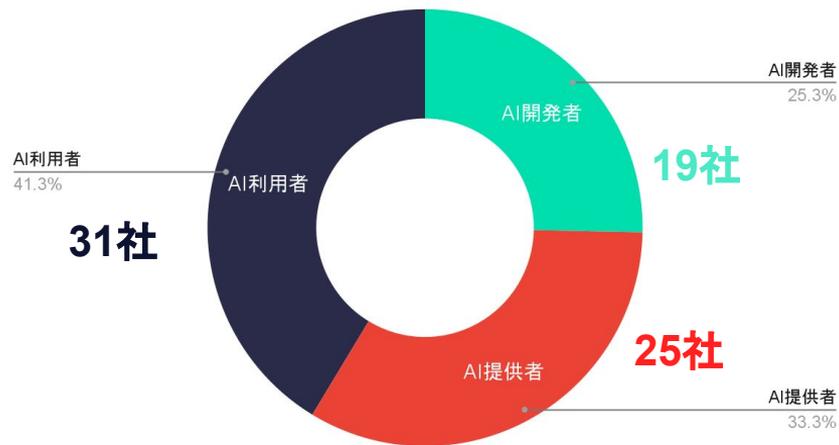
AI Governance Association

## AIガバナンスナビver1.0自己診断結果概要



## AIGA正会員から、各業界を代表する企業が自己診断に参加

回答者のAIバリューチェーン上の属性(複数回答可)

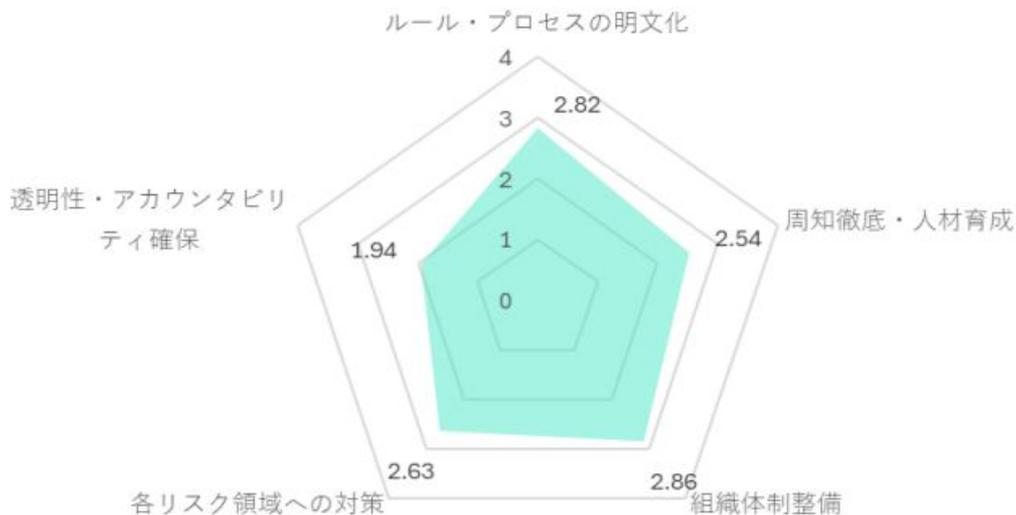


- 開発・提供・利用それぞれの立場から計**35**の回答が集まっている
- 業界としても、IT・通信・保険・証券・銀行・インフラ・製造など多様
- **34社/35社**が生成AIを利用したユースケースを保有している
- 出力結果が人によるチェック・修正を経ずに社外に表示・提供されるAIのユースケースがある企業は10社

# ルール整備・組織づくりが先行。一方、個別リスク対応(特に技術的対策)や透明性確保が課題

全体平均: **2.51点**

ver1.0自己診断企業の領域別平均点

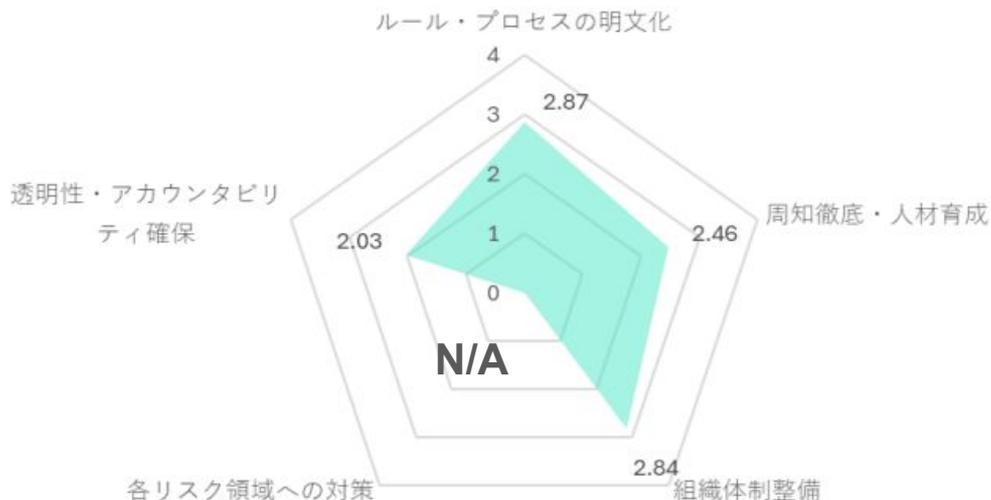


- 「ルール・プロセスの明文化」「組織体制整備」については平均が2.8を超え、社内ルールの規定化・体制の設置などの取組の進捗が窺える
- 「透明性・アカウントビリティ確保」についてはスコアが低く、技術的対策や監査体制の外部連携の取組余地が大きい
- AI・生成AIの継続的な管理、ハイリスクな業務での活用は道半ばであり、ユースケースの成熟とともに各企業に求められる対策が具体化され、低得点領域の取組も進むと考えられる

# グループガバナンスについても、大きな得点傾向の差は見られなかった 親会社・グループとしてのポリシーや方針を、傘下企業に適用している事例が多い

全体平均: **2.46点**

グループガバナンスβ版参加企業の領域別平均点



- 「ルール・プロセスの明文化」については親会社・グループのルールを傘下企業に適用している事例が多く見られた
- 「透明性・アカウンタビリティ確保」についてはグループガバナンスにおいても平均点は低く、子会社の意向を確認して方針を決める必要がある点が明らかに

※各リスク領域への対策はグループガバナンスにおいて自己評価対象外

## 開発者、提供者、利用者の順に得点は低くなっている

全体平均: **2.51**点

開発者平均: **2.71**点(n=19)

提供者平均: **2.58**点(n=25)

利用者平均: **2.44**点(n=31)

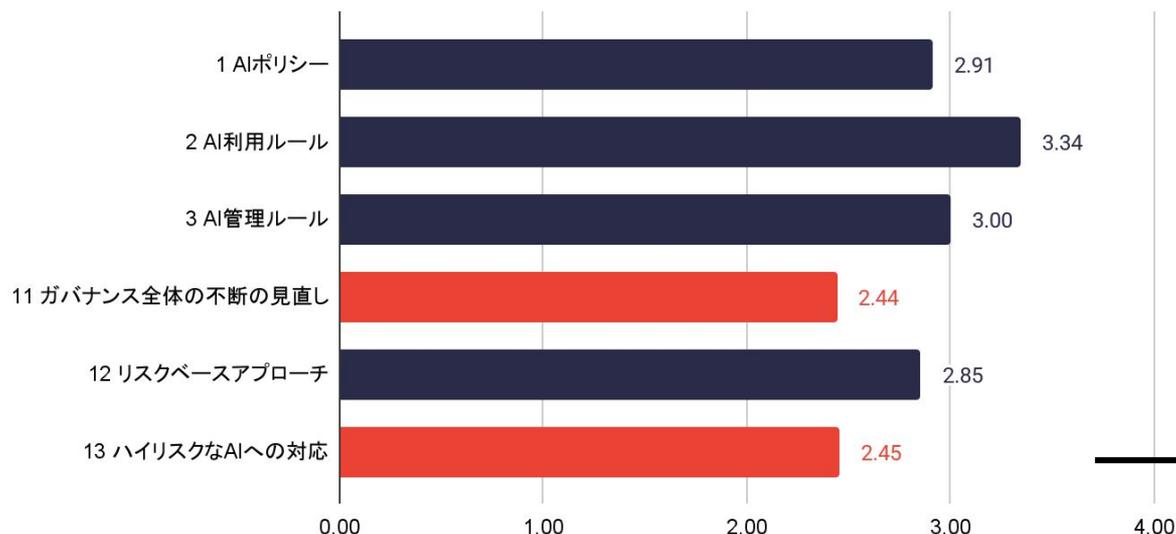
- AI利用者**のみの立場**の企業の平均点は**2.2**点、提供者・利用者**の立場**の企業の平均は**2.1**点と全体の傾向と比較して**低い**評点となった
- 利用者属性（非開発者）の企業は「各リスク領域への対策」が顕著に低い傾向あり。他社のSaaSのAI製品を調達して利用する場合に、ベンダ側の安全性確保策にリスク対策を委ね、自社において対策を実装することに限界があることによるものと推測される

# AIの導入に向けたルール作りは進んでいるが、リスクが高いユースケースの開拓や、技術・制度動向を踏まえた見直し・更新は今後進展の余地あり

ルール・プロセスの明文化の各取組事項平均点

平均2.5点以上

平均2.5点未満



取組例（匿名）

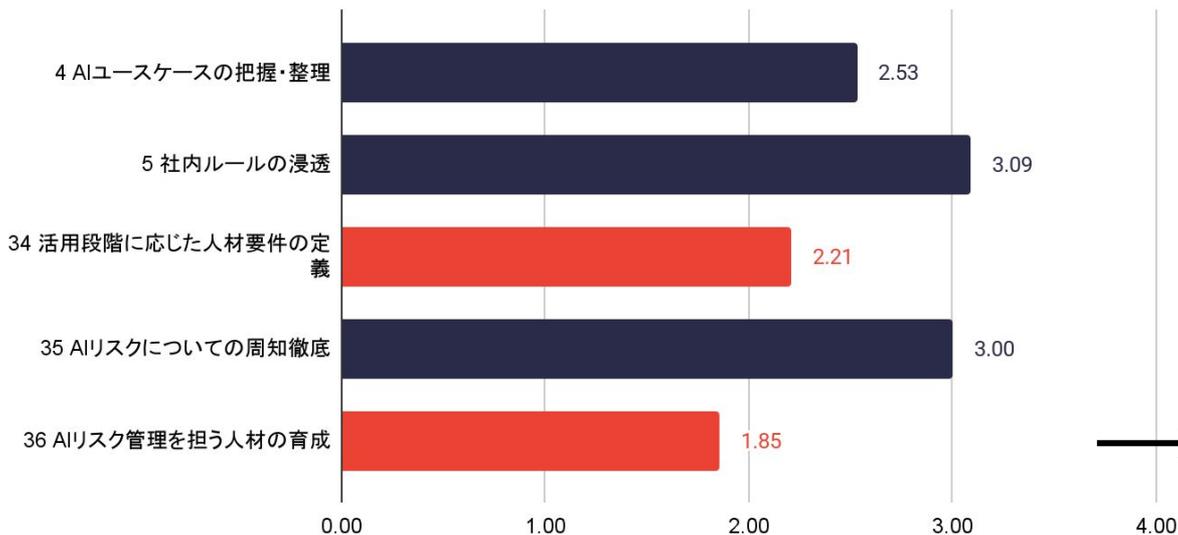
“ハイリスクと判断された場合の対処策定は、AIの有無に関わらず必須としているが、ハイリスクと判断されたAIモデル・サービスに特化した対応は未定である。”

# 策定したルール of 浸透や研修等での周知徹底は広く行われている ガバナンスに必要なスキルの明文化・育成は検討途上の企業多数

周知徹底・人材育成の各取組事項平均点

平均2.5点以上

平均2.5点未満



## 取組例（匿名）

“社員のスキルマップを作成し、また教育プログラムの実施に取り組み始めているものの、人材配置への反映には十分至っていない。”

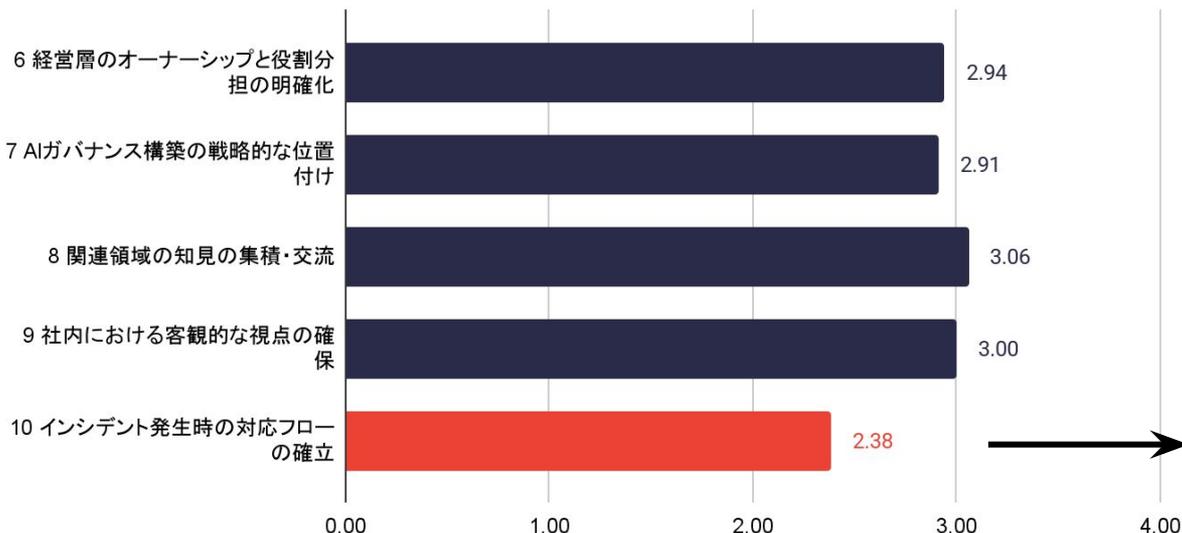
“AIリスク管理を担う技術者、ガバナンス人材等の人材要件定義も進んでおらず、既存人員で都度必要な知見をアップデートしている状態であり、体系立てて人材を育成するには至っていない。”

# 責任者の明確化といった組織体制整備については、多くの企業で達成 AI特有のインシデント対応フローの要否は検討・整理中のケース多数

組織体制整備の各取組事項平均点

平均2.5点以上

平均2.5点未満



取組例（匿名）

“インシデント対応の体制はグループとして整備されているが、AIモデル・サービスのリスク顕在化についての対応フローなどは未確立である。”

# 個人情報や著作権等法に規定されている項目については一定の整理・対策が進んでいるが、AIの悪用・攻撃への対策は利用者を中心に道半ば

各リスク領域への対策の各取組事項平均点

平均2.5点以上

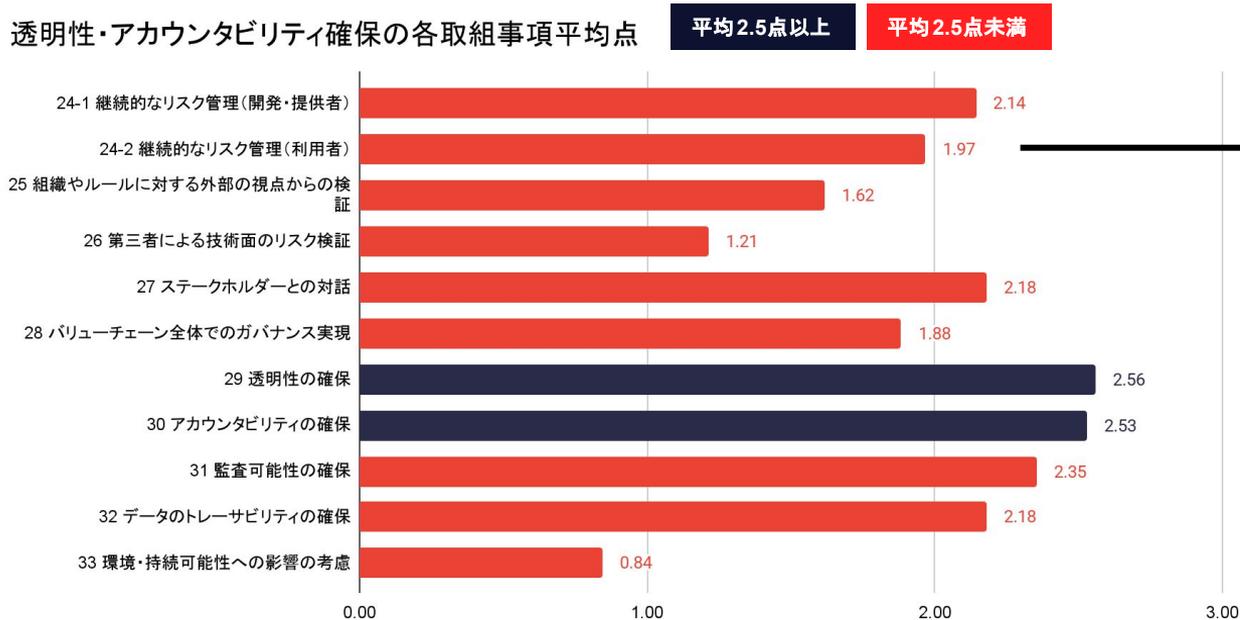
平均2.5点未満



取組例 (匿名)

“問題ある入出力についてフィルタリングする機能が実装されているモデル・サービスを選定し・実装しているが、現状ではサードパーティ製のファイアウォールやフィルタリングツールの導入には至っていない。”

# 第三者検証などの構造的な信頼性確保策や、AI利用者にとってのバリューチェーン全体を意識したガバナンスの実現に課題感



## 取組例(匿名)

“運用開始後も顧客および自社内でログを確認できるプロセスとなっており、顧客と定期的に運用状況を議論する場をもっている。”

“現時点では、AIシステムの企画、稼働前段階のリスク評価にとどまっている。運用開始後の定期的なリスク検証と対策検討については、運用を検討中。”

# ナビの意義についてはポジティブな意見を頂いた一方、課題も見えてきた

## 取組状況の可視化に有用との声

“現在AIガバナンス体制を構築中の弊社にとって、やるべきことを列挙頂き 感謝しております”

“自社に足りていない点、他社と比較した際の自社の現在地点を知る ことのできる有益な取り組み”

## 取組例の評点例、記載粒度は課題の余地あり

“利用ルールや管理ルールなど、一度作成はするが時代の変化に合わせて修正する ものを「4 (実装済み)」とするか「3 (ある程度実装済み)」とするのか悩んだ。”

“全体的に「4.実施済」のレベル感がもう少し細かく設定されているとよいと思いました”

“当社の業態に照らして、3点、4点の要件が過度な体制となっている項目が見受けられ 条件をより細かく設定する 方が望ましい”